第１回新潟市秋葉区外国籍市民懇談会　概要

日　　時：平成 25 年 1 月 23 日（水）　午後 2 時～4 時
場　　所：秋葉区役所　6 階　601 会議室
出席委員：6 名
　　荏原　富士子（コーディネーター），アルムガム　ソマスンダラム（公募委員），
　　王　淑貞（公募委員），高　晟埈（公募委員），ノレイ　ハセガワ（公募委員），
　　白　雪晴（公募委員）
事 務 局：堀内国際課長，宮島主査，田村主査，関本主査
傍 聴 者：1 名

意見の概要
1）近隣住民や外国籍区民との交流，地域コミュニティとの関わりについて
- 日本人と友達になるのが難しい。日本の文化を芯から理解したいが，何年暮らしても，努力しても分からないことがある。
- 秋葉区内で同じ国の人と知り合う機会が少ない。クロスパルに行くのも遠い。町内会に外国人が入っていくのは難しい。よそ者にも優しくしてもらえるような働きかけをしてほしい。
- 仕事を探すのが大変。採用してもらえないことも多い。
- 日本語，特に漢字が読めず，病院に行くときに困る。医者も英語が分からないことがある。日本人の友達もあまりいない。子どもの学校のプリントが日本語なので分からない。
- 長岡で正月のイベントに参加したが，そのようなイベント情報が知りたい。日本人の家族と交流したい（ホームステイなど）。日本の文化・言語を知りたいが新津あたりで勉強できるとよい。
- 日本語を習おうと思ったが高いし遠いのでやめた。
- 免許を取るにも日本語の試験をクリアしなければならない。交通手段の確保だけでも難しい。

2）外国籍区民の子育てと教育について
- 保育所で待機児童問題がある。母国との保険制度の違いもある。子どもが 2 つの国の母子手帳を持っている。外国の子育て機関との連携ができないか。
- 秋葉区には日本語を学ぶ場や「にこぱるクラブ」のような子どもへの学習支援がない。中心部へ通うには遠距離であり，費用も高額。区ごとにやってほしい。
- 新津や亀田の図書館には外国語の絵本がなく，利用できない。公共の施設に足を運ぶようなきっかけづくりがあれば，そこから情報交換や交流もできる。
- 日本人優位の考え方が子どもに根付いていると感じることがある。日本の価値観がすべて，というのが浸透している。
- みんな同じがいい，同じでなくてはならないという意識があり，違うといじめにあうなど外国人のいづらさにつながっている。
- 学校では日本，家庭に帰ると両親の国。子どもも板ばさみになっている。
- 外国籍の母親が集まりママ友を作れるような場がほしい。
- 近所づきあいがないので，子どもの遊び相手がいない。
- 子育て，教育にお金がかかるので，働きたいと思っても外国籍住民には就職が難しい。

●出された課題を整理し，第 2 回懇談会（3 月下旬開催予定）では，市から具体的な例，提案を示すこととなった。